



NIPPON SAN SO HOLDINGS

個人投資家さま向け

日本酸素ホールディングス株式会社 (証券コード: 4091) 企業説明会

2023年8月8日

財務・経理室 IR部長 梶山 慶太

The Gas Professionals

重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション」とは、本プレゼンテーションにおいて、日本酸素ホールディングス株式会社（以下、「日本酸素HD」）によって説明または配布された本書類、口頭でのプレゼンテーション、質疑応答及び書面または口頭等の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明および質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内もしくは勧誘、または、いかなる投票もしくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明または形成するものではありません。また、これを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより、株式または有価証券の募集を公に行うものではありません。本プレゼンテーションは、投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく、情報提供のみを目的として、受領者に使用されるという条件の下で、受領者に対して提供される追加情報とともに提供されております。この制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券関連法規の違反となる可能性がございます。日本酸素HDが直接的に、または間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「日本酸素HD」という用語は、日本酸素HDおよびそのグループ会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。また、同様に「当社、当社グループ」という用語は、子会社全般またはそこで勤務するものを参照していることもありえます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることがあります。

・将来に関する見通し情報

本プレゼンテーションおよび本プレゼンテーションに関して配布された資料には、日本酸素HDの理念または見解、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、見積もり、予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする」「計画する」「信じる」「望む」「継続する」「期待する」「めざす」「意図する」「確実にする」「だろう」「かもしれない」「すべきである」「であろう」「することができた」「予想される」「見込む」「予想する」などの意思や推量をあらわす用語もしくは同様の表現またはそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られません。これらの将来見通しに関する情報は、多くの重要な要因に関する前提や想定に基づいており、実績としてあらわれる業績では、将来見通し情報を通じて明示または暗示された将来の業績とは異なる可能性があります。その重要な要因には、国内外の一般的な経済条件を含む、当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の開発・出現、関連法規の変更、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、販売された製品または試験・候補製品の安全性または有効性に関するクレームまたは懸念等、新型コロナウイルス感染症のような健康危機が当社の事業を行う国・地域の政府を含む当社とその顧客および供給業者に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（Post Merger Integration:買収後統合）の時期及び影響、日本酸素HDの事業資産を売却する能力およびかかる資産売却のタイミング、当社のWebサイトにおいて閲覧可能な日本国の有価証券報告書関連法規に沿って提出された最新の年次有価証券報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。日本酸素HDは、関連法規や証券取引所の関連規制により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる情報または当社が提示するあらゆる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は、将来の経営結果の指針とはなりません。本プレゼンテーションにおける日本酸素HDの経営成績は、日本酸素HDの将来の経営成績またはその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証または見積もりではないことにご留意ください。

・国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、コア営業利益、有利子負債、純有利子負債、調整後ネットD/Eレシオ、フリー・キャッシュ・フロー、ROCE after Taxのように、IFRSに準拠しない財務指標（以下、「当社独自指標」）が含まれています。当社役員及び執行役員は、業績評価ならびに経営および投資判断をIFRSおよびIFRS以外の指標に基づき実施しています。当社独自指標においては、最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、または異なる数値となる一定の利益、費用およびキャッシュ・フロー項目を除外しております。当社独自指標を提供することで、当社役員及び執行役員は、投資家の皆さまに対して、当社の経営状況、主要な業績および動向のさらなる分析のための付加的な情報を提供したいと考えており、当社独自指標は、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆さまにおかれましては、当社独自指標について、これらによく対応するIFRSに準拠した財務指標との照合を行っていただきますように、お願い申し上げます。

・財務情報

当社の財務情報は、国際会計基準（IFRS）に基づき作成しております。

本日の内容

1. 日本酸素ホールディングスについて
2. 成長戦略
3. 株主還元



1. 日本酸素ホールディングスについて

コーポレートムービー2023



この動画は、当社YouTubeチャンネルに掲載しております。（2023年4月公開）
<https://youtu.be/SLWfZT9z2hI>



こちらのQRコードからも、
この動画に遷移します。



会社概要

商号	日本酸素ホールディングス株式会社
証券コード	東京証券取引所 プライム市場 4091
創業年月日	明治43年(1910年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
連結売上収益	1兆1,866億円 (2023年3月期 IFRS)
連結営業利益	1,195億円 (同上)
連結従業員数 (2023年3月31日現在)	19,579名 (国内 6,394名、海外 13,185名)
主要株主の状況 (2023年3月31日現在)	三菱ケミカルグループ株式会社 50.6% 出資比率は、自己株式を控除した発行済株式総数より算出しています。



代表取締役社長 CEO
はまだ としひこ
濱田 敏彦

時価総額 (2023年8月1日現在)	1兆4,863 億円
株価(終値) (2023年8月1日現在)	3,432 円 単元株式：100株
PBR(株価純資産倍率)	2.05 倍 1株当たり親会社所有者帰属持分(2023年3月期実績)と上記表示の株価より算出
PER(株価収益率)	21.07 倍 基本的1株当たり当期利益(2024年3月期予想)と上記表示の株価より算出

企業理念

グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

Proactive. Innovative. Collaborative.
Making life better through gas technology

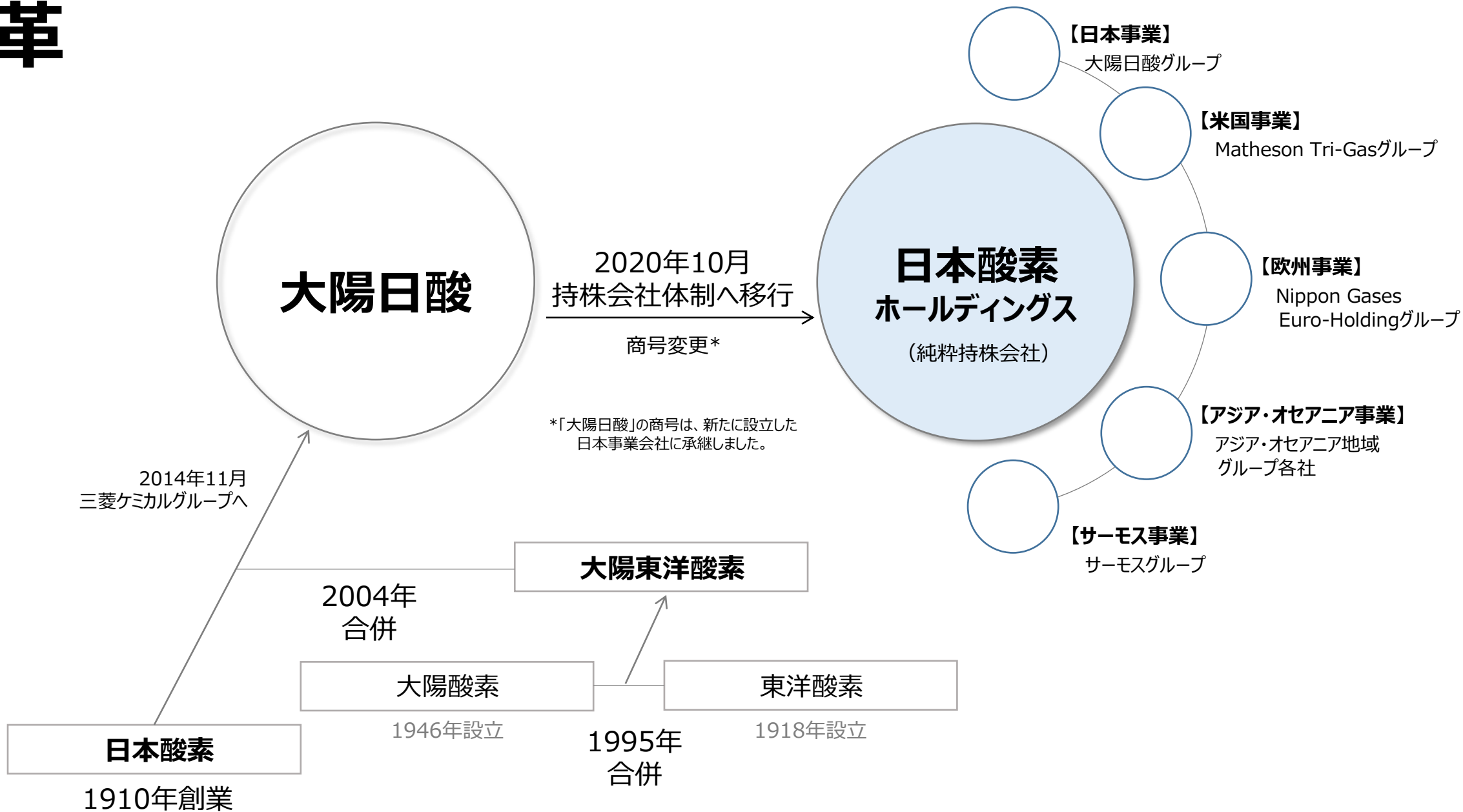
The Gas Professionals

グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより
社会に新たな価値を提供し、
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions
that increase industrial productivity,
enhance human well-being and
contribute to a more sustainable future.

沿革



主要な事業

産業ガス事業



主な製品

- 酸素 Oxygen
- 窒素 Nitrogen
- アルゴン Argon
- 水素、一酸化炭素、合成ガス
Hydrogen, CO and syngas
- 炭酸ガス Carbon dioxide
- ヘリウム Helium
- 上記に関連する機器・工事

エレクトロニクス事業



主な製品

- アルシン AsH_3
- ジボラン B_2H_6
- モノフルオロメタン CH_3F
- 塩化水素 HCL
- ホスフィン PH_3
- シラン SiH_4
- 上記に関連する機器・工事

サーモス事業

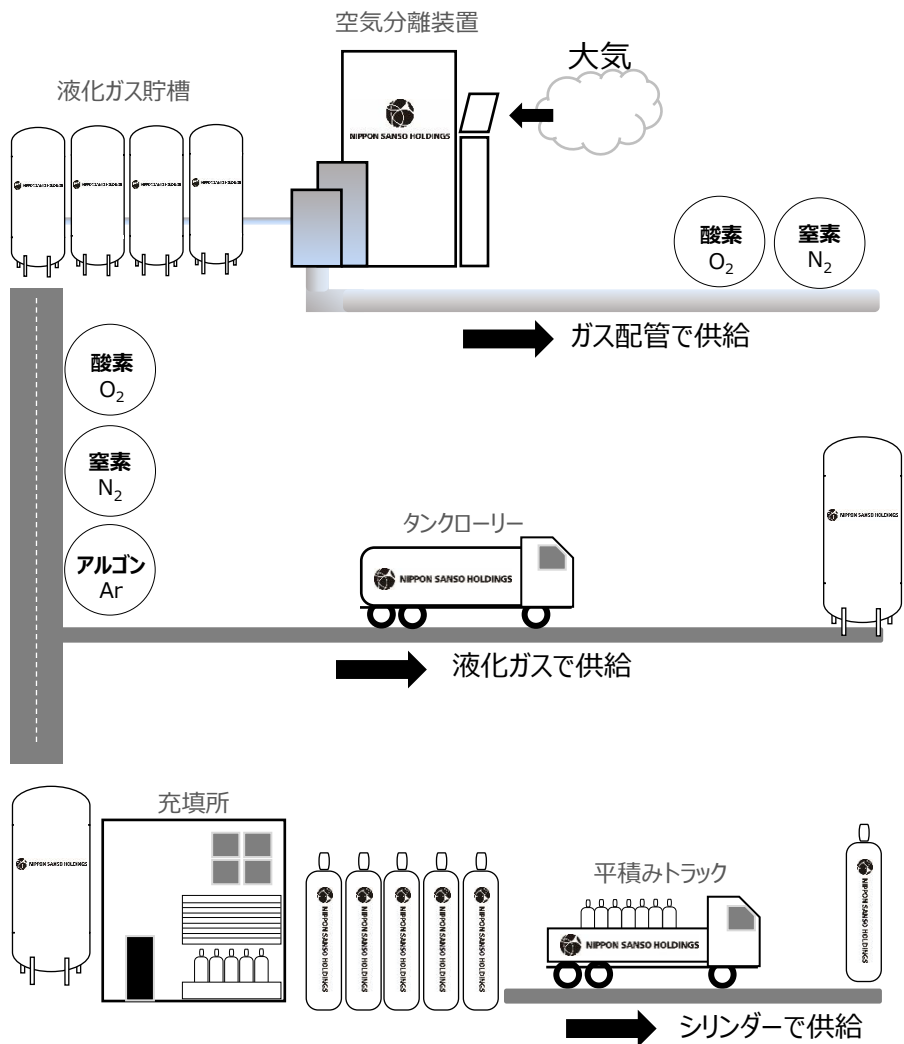


主な製品

- スポーツボトル
- ケータイマグ
- タンブラー
- フライパン
- シャトルシェフ
- スープジャー

産業ガスの供給モデル

エアセパレートガス



オンサイト On-site

主要な供給先（業種）

鉄鋼 石油化学 石油精製

客先の隣接地に生産工場を設置し、配管を直接繋いで、常時供給する形態（大規模供給）

バルク Bulk

主要な供給先（業種）

自動車 造船 ガラス・製紙
建設機械 製薬・医療 食品・飲料
液晶パネル 太陽電池 半導体

客先構内に液化ガスの貯槽を設置し、ガスの利用方法に応じて供給する形態（中規模供給）

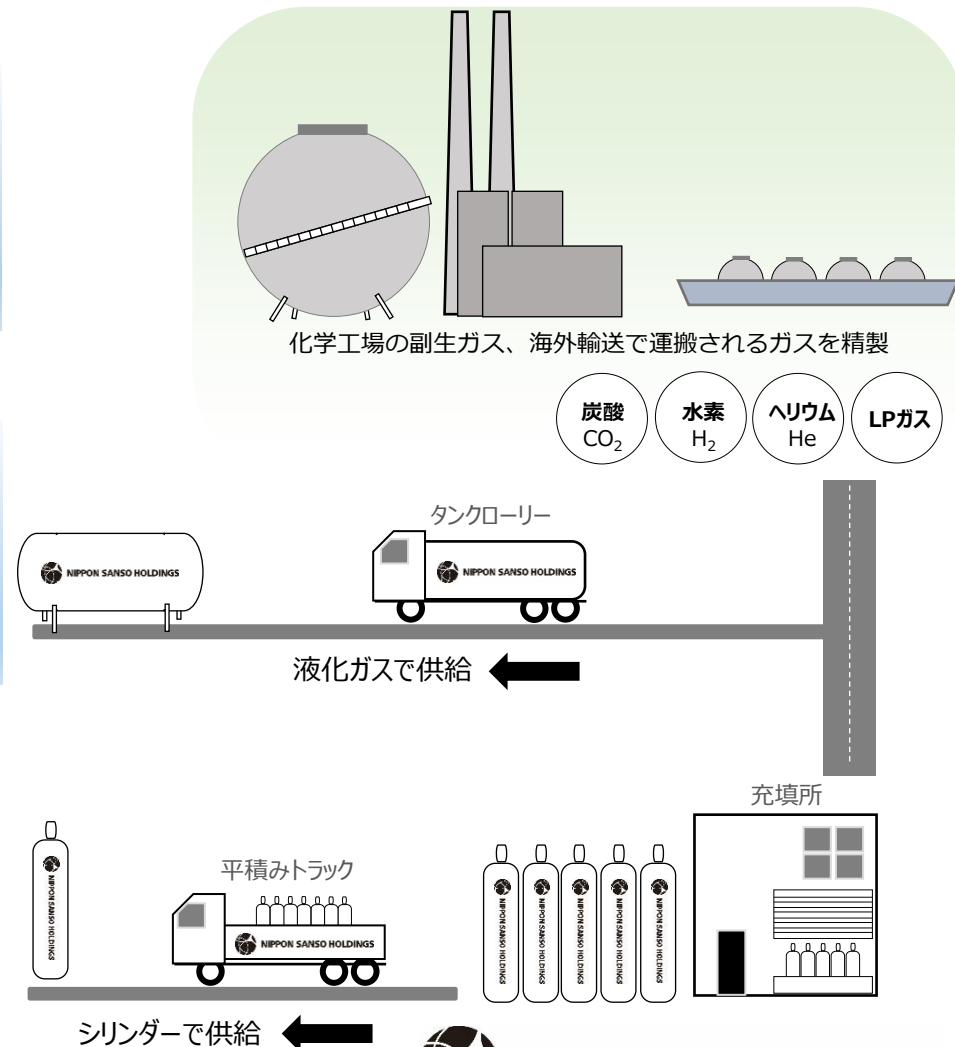
パッケージ Packaged

主要な供給先（業種）

在宅医療 先端医療 公衆衛生
技術開発 研究開発 建設工事

客先に充填容器（シリンダー）を配送し、ガスの利用方法に応じて供給する形態（小規模供給）

その他のガス



産業ガスの貢献分野

鉄鋼、化学、エレクトロニクス、輸送機器・機械、食品、生命科学・医療、エネルギー等のあらゆる産業に様々なガスの供給を通じて、日本の産業界の発展を支えてきました。また、産業の発展とともに業界・用途が広がっています。

1910年代～



供給先の主な業界
鉄道、陸海空軍

供給する主なガス
酸素、アセチレン

代表的な用途
金属切断・溶接



1950年代～



供給先の主な業界
製鉄・造船

供給する主なガス
酸素

代表的な用途
高炉への吹込み



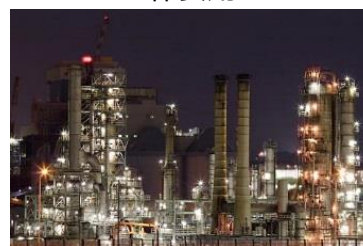
1960年代～



供給先の主な業界
石油化学

供給する主なガス
窒素

代表的な用途
保安用



1970年代～



供給先の主な業界
半導体・自動車

供給する主なガス
窒素、アルゴン

代表的な用途
酸化防止



1980年代～



供給先の主な業界
医療・食品

供給する主なガス
酸素、窒素

代表的な用途
病院・封入



産業ガス市場シェア

グローバル

市場規模: 約11兆円
(2023年3月末時点の米ドル為替レートをもとに当社推定)

1位		リンデ Linde plc*
2位		エア・リキード Air Liquide S.A.
3位		エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ Air Products and Chemicals, Inc.
4位		日本酸素ホールディングス Nippon Sanso Holdings Corporation
5位		メッサーグループ Messer Group GmbH

*Linde plcは、2018年10月に 独Linde AGと米Praxair Inc. が統合して発足しました。
(データ出所)「Global Overview Gas Report 2021」(gasworld社発行)

日本

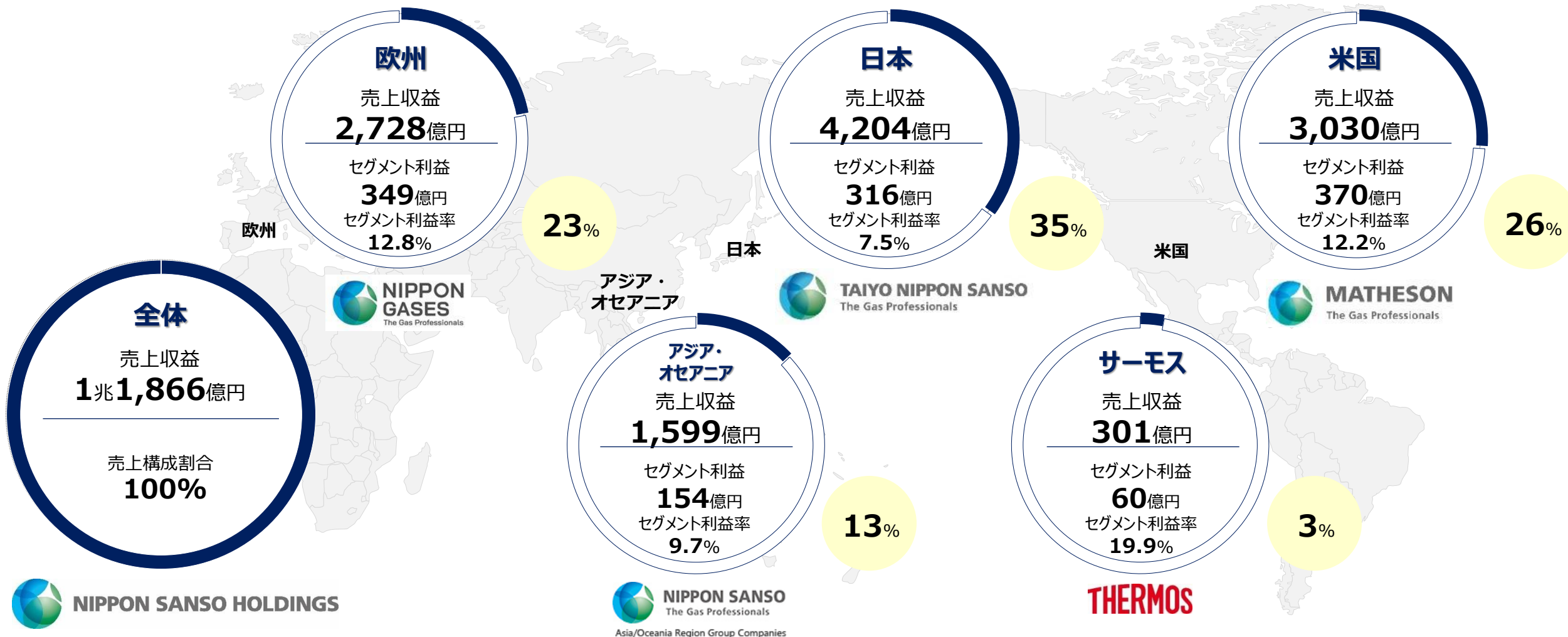
1位		大陽日酸株式会社 (日本事業会社) (日本酸素ホールディングスグループ)
2位		エア・ウォーター株式会社
3位		日本エア・リキード合同会社 (Air Liquide Japan G.K.)
		岩谷産業株式会社

(データ出所)「ウェルディングMART2022」(新報株式会社発行)

事業展開

*各セグメントの数値は2023年3月期通期のものです。

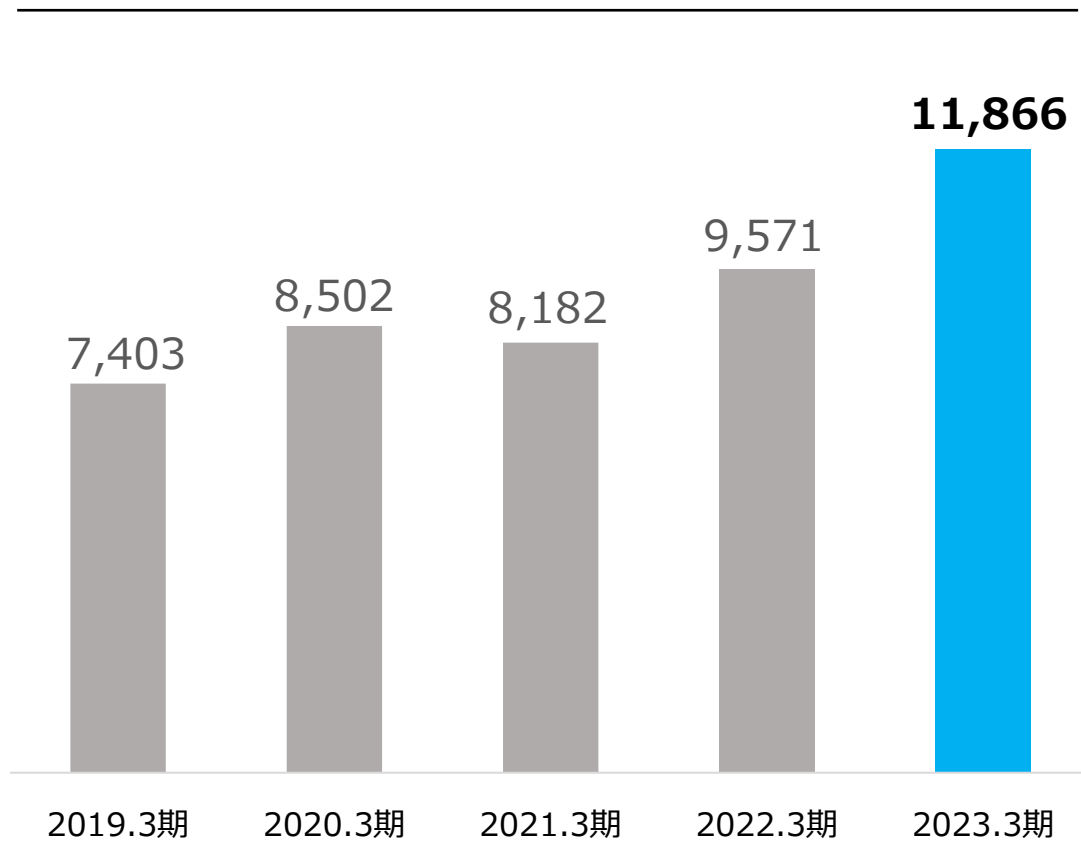
*黄色円グラフ中の数値 (%) は各セグメントの売上構成割合です。



業績推移

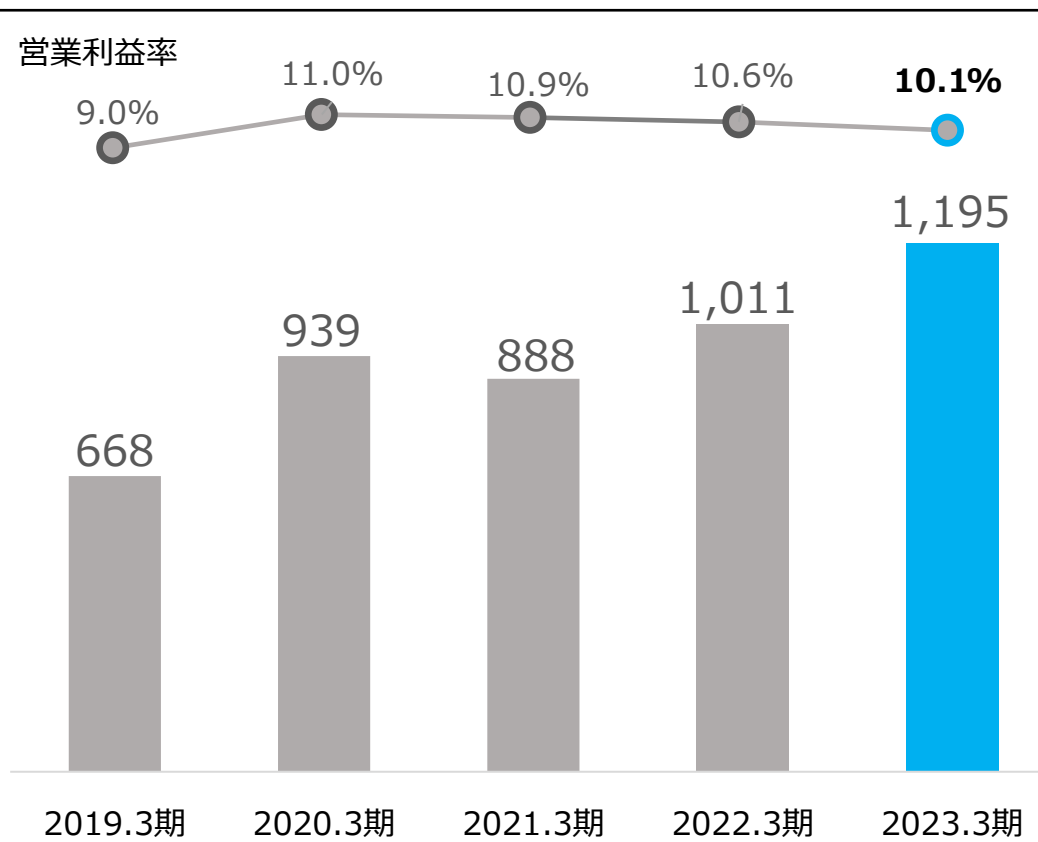
売上収益

(億円)



営業利益 (IFRS)

(億円)



通期業績概要

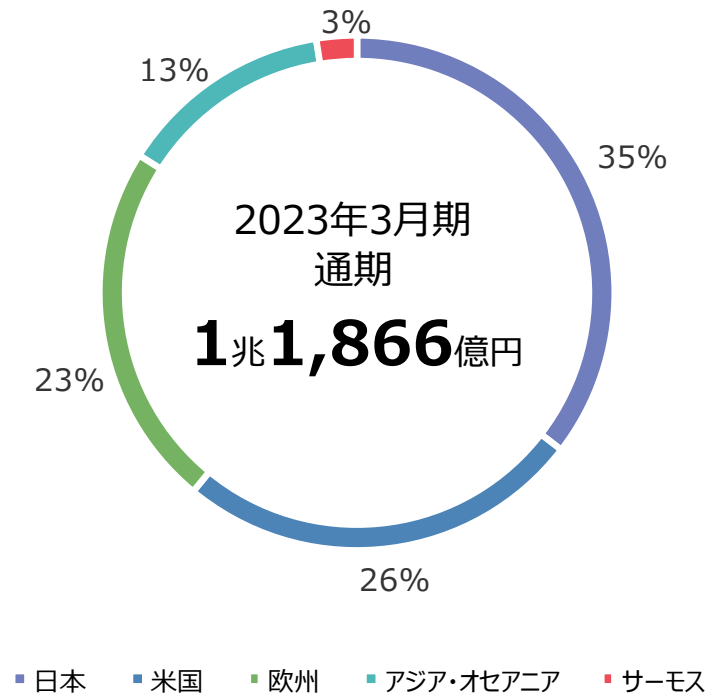
	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期	前期比	
			増減額	増減率
(単位：十億円)				
売上収益	957.1	1,186.6	+229.5	+24.0%
コア営業利益	102.7	123.1	+20.4	+19.9%
コア営業利益率	10.7%	10.4%		
非経常項目	-1.5	-3.5	-2.0	
営業利益 (IFRS)	101.1	119.5	+18.4	+18.1%
営業利益率	10.6%	10.1%		
EBITDAマージン	20.4%	19.3%		
金融損益	-9.5	-14.0	-4.5	
税引前利益	91.6	105.5	+13.9	+15.2%
法人所得税	24.9	29.5	+4.6	
当期利益	66.6	75.9	+9.3	+14.0%
(当期利益の帰属)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	64.1	73.0	+8.9	+14.0%
当期利益率	6.7%	6.2%		
非支配持分に帰属する当期利益	2.5	2.8	+0.3	
基本的1株当たり当期利益 (EPS) (円)	148.13	168.85	+20.72	
為替レート (円)	USD (米ドル)	113.04	136.00	
(期中平均レート)	EUR (ユーロ)	131.11	141.62	
	AUD (豪ドル)	83.33	92.67	

※2023年3月期（通期）における為替換算による影響額合計：売上収益 +796億円 コア営業利益 +99億円

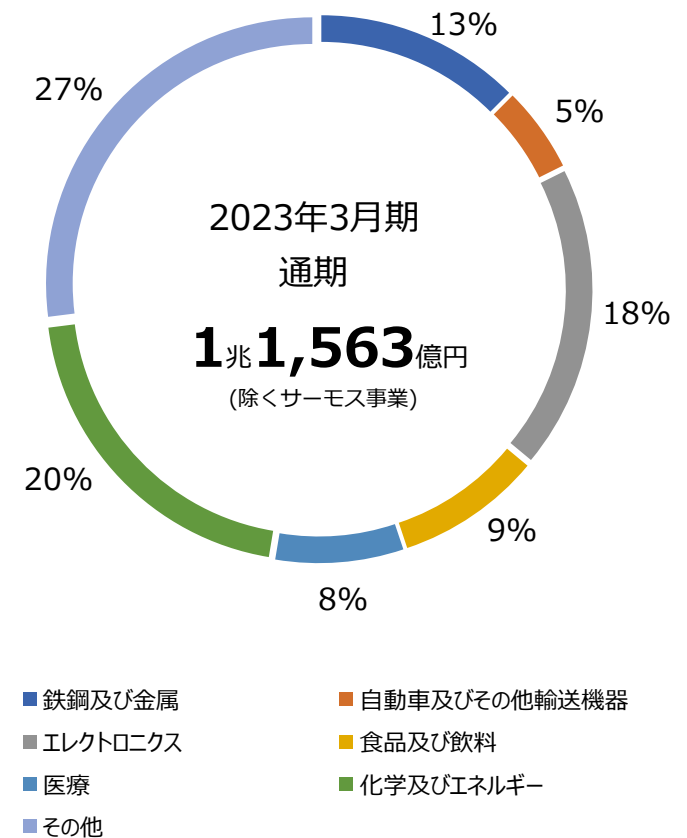


売上収益構成 (通期)

セグメント別



産業別



通期業績予想

	2023年3月期	2024年3月期	前期比	
	通期	通期予想	増減額	増減率
(単位：十億円)		(2023年5月11日発表)		
売上収益	1,186.6	1,160.0	-26.6	-2.2%
コア営業利益	123.1	127.5	+4.4	+3.6%
コア営業利益率	10.4%	11.0%		
非経常項目	-3.5	-	+3.5	
営業利益 (IFRS)	119.5	127.5	+8.0	+6.7%
営業利益率	10.1%	11.0%		
EBITDAマージン	19.3%	20.2%		
金融損益	-14.0	-25.5	-11.5	
税引前利益	105.5	102.0	-3.5	-3.3%
法人所得税	29.5	28.5	-1.0	
当期利益	75.9	73.5	-2.4	-3.2%
(当期利益の帰属)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	73.0	70.5	-2.5	-3.5%
当期利益率	6.2%	6.1%		
非支配持分に帰属する当期利益	2.8	3.0	+0.2	
基本的1株当たり当期利益(EPS) (円)	168.85	162.87	-5.98	
ROCE after Tax (税引き後 使用資本利益率)	5.4%	5.4%		
調整後ネットD/Eレシオ	0.81	0.85		
為替レート (円)	USD (米ドル)	136.00	130.00	
(期中平均レート)	EUR (ユーロ)	141.62	140.00	
	AUD (豪ドル)	92.67	93.50	

2024年3月期は、前期比で、非連結化及び為替による影響を除いた売上収益成長率は+2%、コア営業利益成長率は+5%を見込む

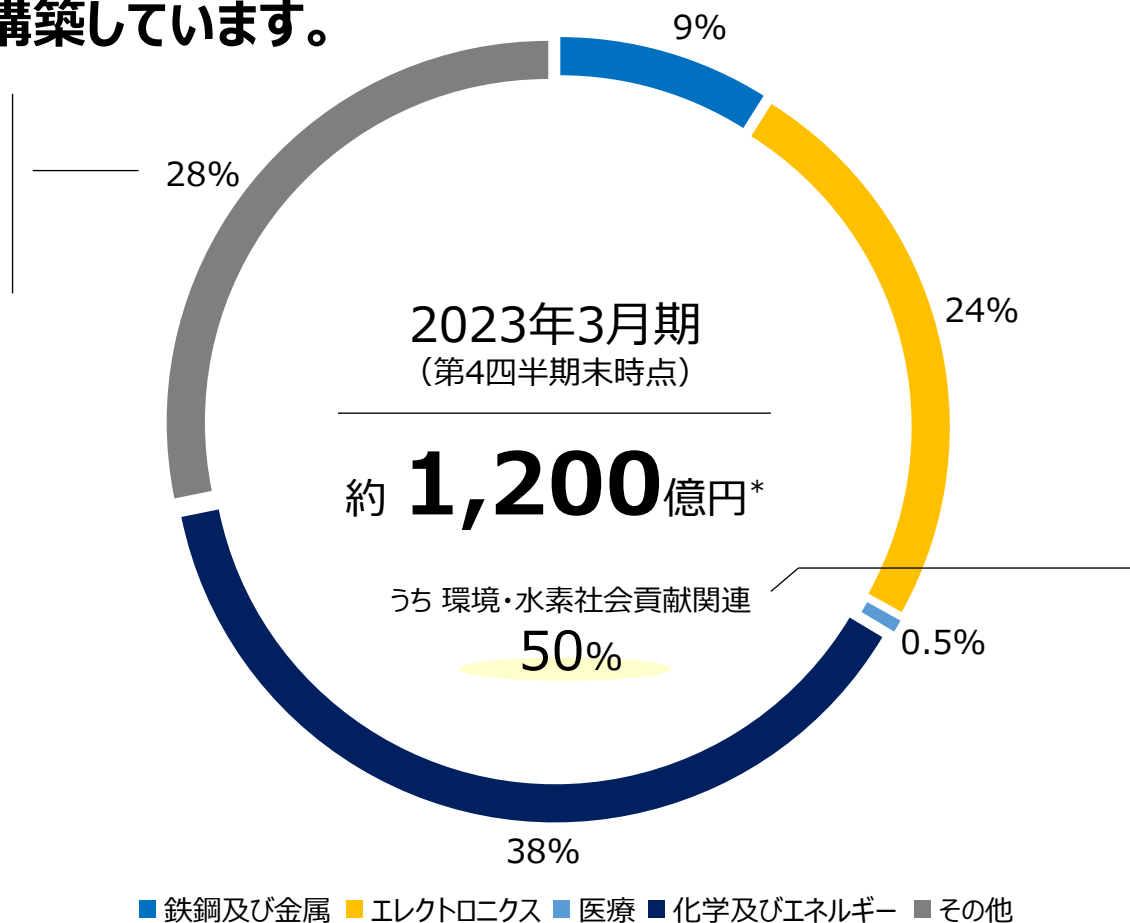
※2024年3月期（通期）における為替換算による影響額合計見込み：売上収益 ▲183億円 コア営業利益 ▲22億円



設備投資案件

当社は、中期経営計画「NS Vision 2026」に基づき、グローバルで多くの成長機会を追求し、多彩な資本ポートフォリオを構築しています。

「その他」には、多種多様な顧客に供給するガスに関連する設備のため、顧客種別で分類することが難しい案件が含まれています。
(例) ・バルク事業向け生産基地の新設・増設
・液化ヘリウム輸送コンテナ



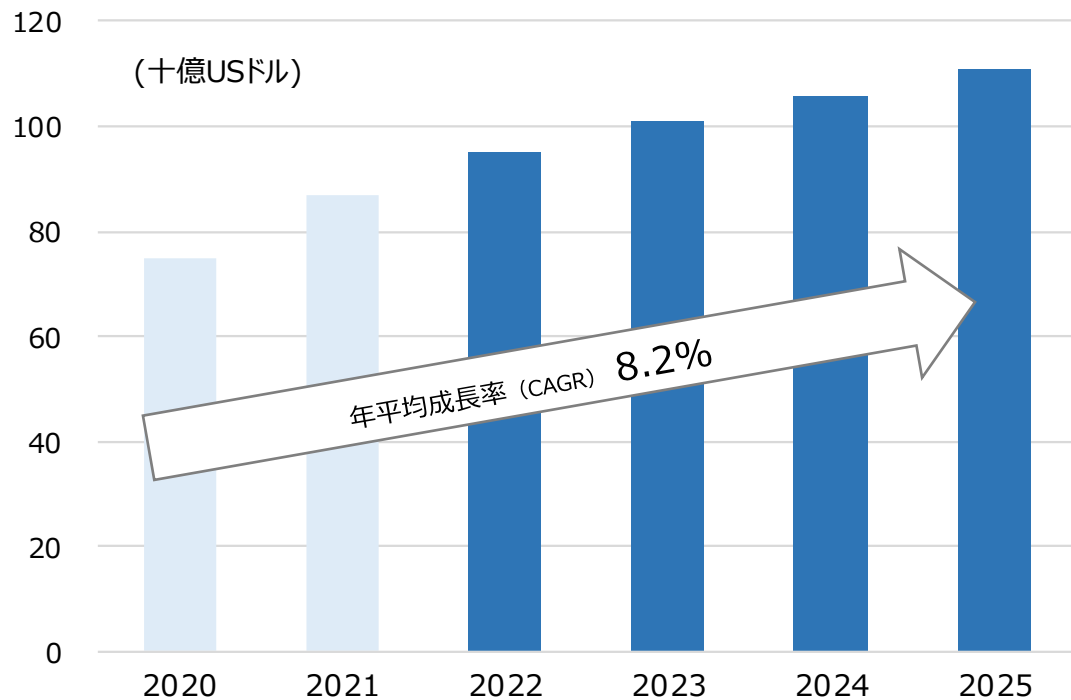
「環境・水素社会貢献関連」には、自社及び顧客のカーボンニュートラルに向けた活動に寄与する案件が含まれています。
(例) ・既存プラントの最新鋭装置への更新
・水素製造関連
(HyCOプラント、グリーン水素JV設立)

なお、上記集計範囲は、当社グループ各社の取締役会が承認した未完了の投資案件であり、各案件の規模は約5億円以上、4百万米ドル以上、4百万ユーロ以上です。
*為替レートおよび為替感応度 (P.36) の2023年3月期 通期累計の期中平均レートを用いて邦貨に換算しています。

① 産業ガス市場: 幅広い産業の発展とともに成長

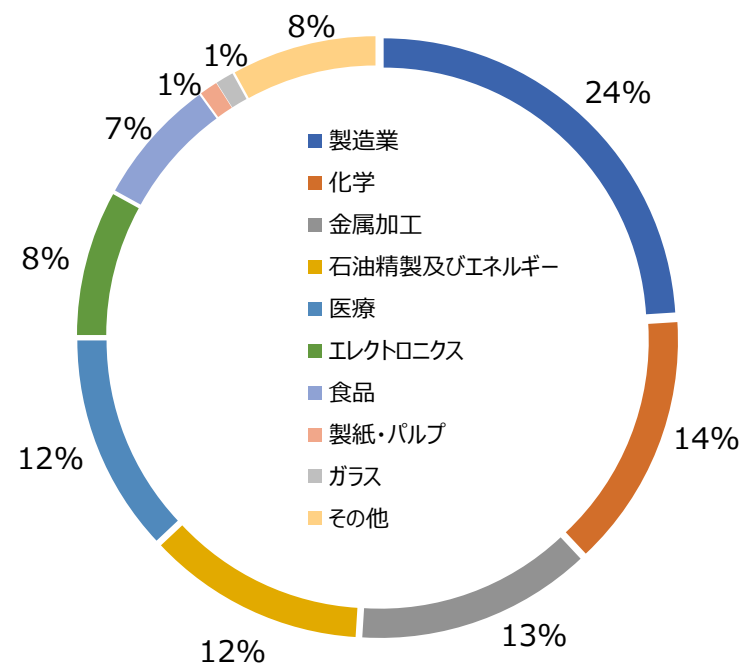
産業ガス市場は、幅広い産業の発展とともに成長を期待でき、特定の産業の経済環境に左右されにくく、医療・食品といった安定成長を見込める産業分野からの需要もあり、不況耐性に強いのが特徴です。

産業ガス市場規模 (グローバル)



(データ出所)
「Global Overview Gas Report 2021」(gasworld社発行)

需要業種別 (グローバル) (2021年)



(データ出所)
「Global Overview Gas Report 2021」(gasworld社発行)

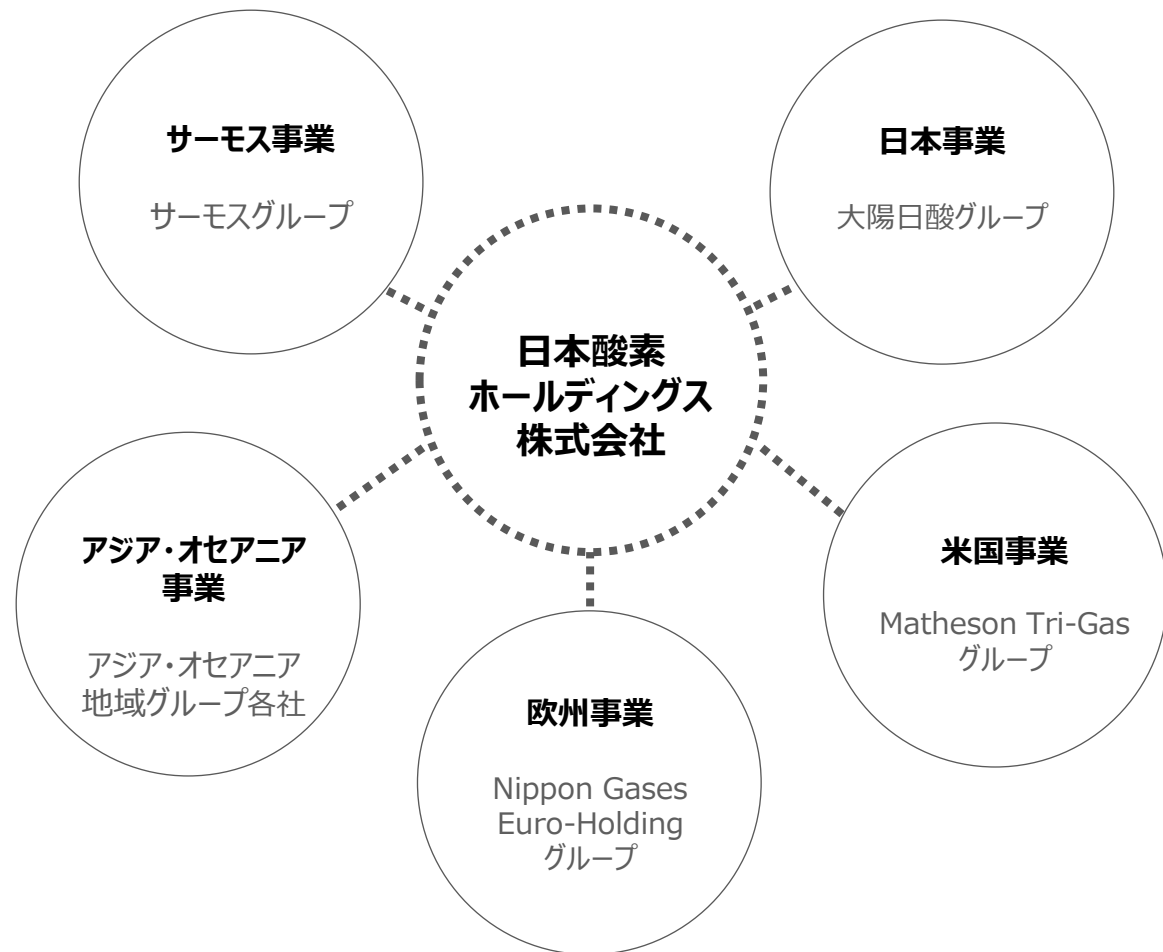
② トータルソリューション

エレクトロニクス産業（半導体、液晶、太陽電池など）をはじめとする、あらゆる産業のお客様に向けて、ガス供給、関連機器・工事・サービスなど、お客様のニーズにきめ細やかな「トータルソリューション」を提供できる体制を整えています。



③ 事業運営体制

2020年10月より、純粹持株会社（ホールディングス）体制に移行し、各事業会社に権限委譲を進め、グローバルガスメジャーとして、競争力のある運営体制を構築し、グループ総合力の強化を図っています。



3つの変化

- 1 | 各事業会社に権限を委譲し、迅速な意思決定と適切な経営資源の分配
- 2 | 事業執行責任と実績の明確化
- 3 | 各事業会社の強み、ベストプラクティスを速やかに共有・展開できる体制

グループ総合力の強化へ



Enabling the Future

NS Vision 2026

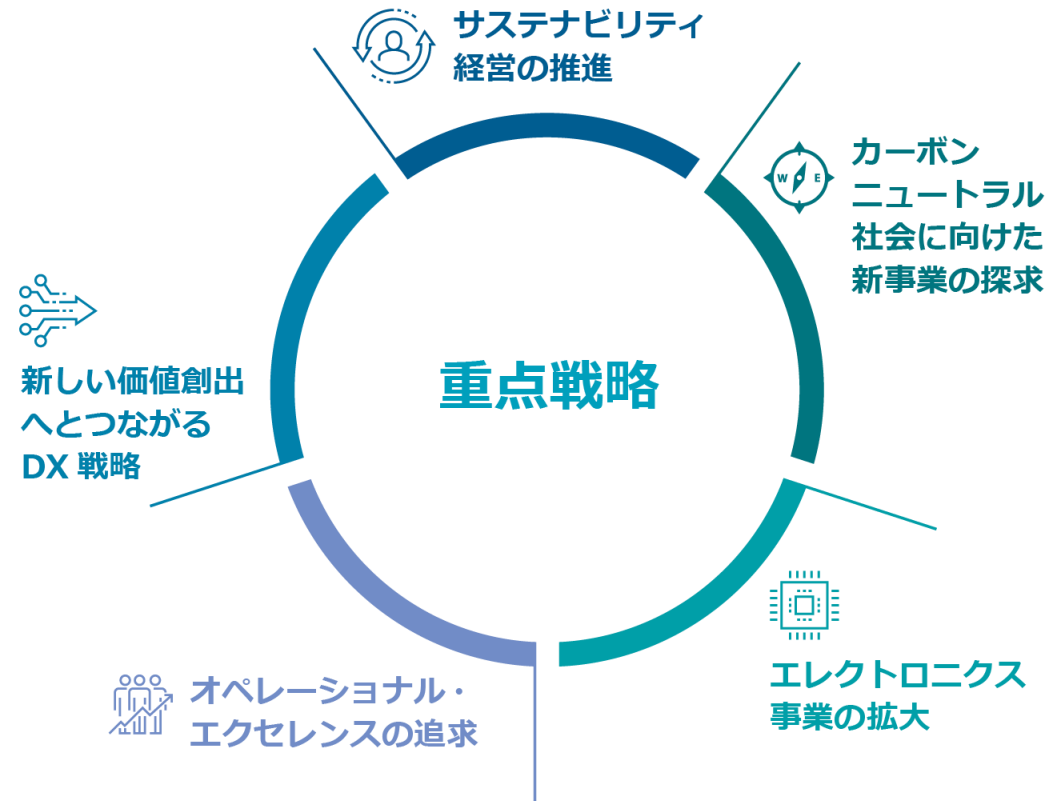
日本酸素ホールディングス株式会社

中期経営計画主要戦略 (2023年3月期-2026年3月期)

2. 成長戦略

NS Vision 2026 | Enabling the Future

当社は2022年4月より、2026年3月期を最終年度とする4ヶ年の中期経営計画『NS Vision 2026～Enabling the Future～』を策定しました。



NS Vision 2026 グループ目標KPI



売上収益

9,750 億 ~ 1 兆円*

コア営業利益

1,250~1,350 億円*

EBITDAマージン

グループ：
≥24%

日本、米国、欧州、
アジア・オセアニア、サーモス：
≥17~33%

調整後ネットD/Eレシオ

≤0.7

ROCE after Tax

≥6%

環境

GHG排出量の削減率 (基準年度：FYE2019)

18% :FYE2026 32% :FYE2031

環境貢献製商品によるGHG削減量

環境貢献製商品による
GHG削減貢献量

>

GHG 排出量
FYE2026

保安

休業災害度数率

≤1.6
FYE2026

コンプライアンス

コンプライアンス研修受講率

100%
FYE2026

人事

女性従業員比率

≥22% :FYE2026
25% :FYE2031

女性管理職比率

≥18% :FYE2026
22% :FYE2031



*1 グローバル経済の不確実性を踏まえ、売上収益およびコア営業利益は範囲表記としています。

*2 当中期経営計画策定時の想定為替レートは、米ドル115円、ユーロ125円です。

NS Vision 2026 資本配分の考え方

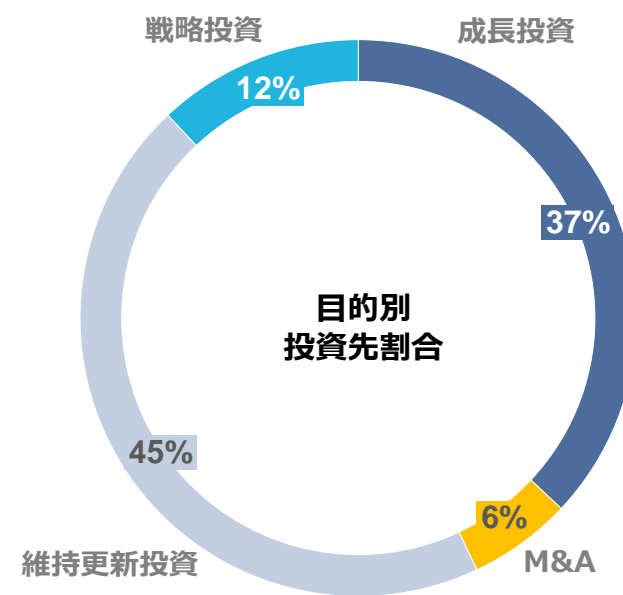
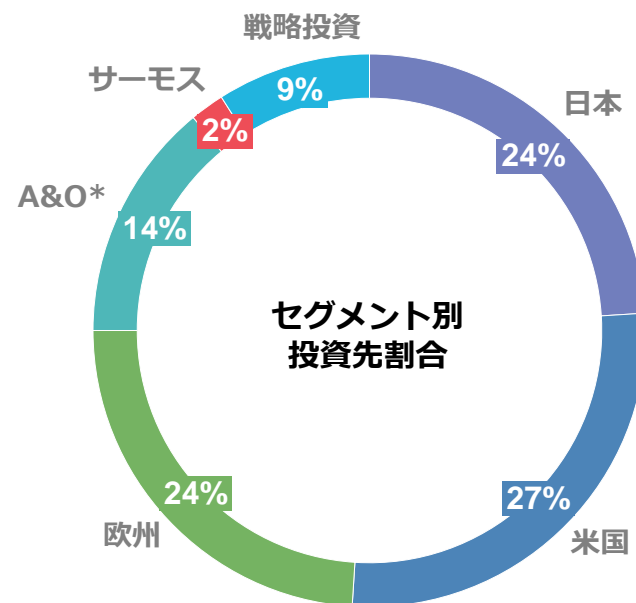
IN

OUT



➤ 戦略投資対象

- **CN:** カーボンニュートラルプロジェクト
- **DX:** デジタルトランスフォーメーション関連



(ご参考) セグメント別 投資対売上収益割合

日本: 7.4%, 米国: 10.5%, 欧州: 12.9%, *アジア・オセアニア: 11.1%, サーモス: 6.9%

8つの非財務プログラム

2026年3月期
目標

- 1 **CNP I**: Carbon Neutral Program I
- 2 **CNP II**: Carbon Neutral Program II
- 3 **ZWP**: Zero Waste Program
- 4 **SWP**: Sustainable Water Program
- 5 **SFP**: Safety First Program
- 6 **QRP**: Quality Reliability Program
- 7 **TDP**: Talent Diversity Program
- 8 **CPP**: Compliance Penetration Program

Environment

<環境>

- GHG (Greenhouse gas) 排出量削減率
(基準年度: 2019年3月期^{*1}) 18%
削減
 - 当社グループが排出するGHG排出量 (Scope 1+2) を上回るGHG削減貢献量を実現 X > Y
- ・内訳
(単位: 千t-CO₂e)
- X: 環境貢献製商品によるGHG削減貢献量
Y: 当社グループのGHG排出量(Scope 1+2)

Social

<保安>

- 休業災害度数率 ≦1.6

<人事>

- 女性従業員比率 ≧22%
- 女性管理職比率 ≧18%

Governance

<コンプライアンス>

- コンプライアンス研修受講率^{*2} 100%

*1 基準値である2019年3月期のGHG排出量は、報告済みGHG排出量実績に、①欧州事業、および②米国HyCO事業の2019年3月期実績を推計加算します。

*2 データ収集は、2023年3月期より開始しました。

Rapidus向けガスサプライヤーに選定

日本事業会社の大陽日酸は、Rapidusが北海道千歳市に新設する次世代半導体工場の試作ライン向けガス関連設備工事の設計施工者およびバルクガス*1のサプライヤーに選定されました。

2024年11月、同社構内に「千歳ガスセンター」を開設し、2025年前半からバルクガスの供給を開始予定です。

Rapidus株式会社

Rapidusは、日本の主要企業8社*2により出資・設立され、次世代半導体の量産化を目指し、自動運転やAIなど、次世代の産業に欠かせない2nm（ナノメートル）の最先端半導体の量産基盤構築を目指しています。

（出所：同社ホームページより当社にて編集）

大陽日酸は、次世代半導体の量産化を目指す本プロジェクトに参画することで、半導体産業の発展に貢献します。

Rapidusの次世代半導体工場 全景イメージ図（Rapidus提供）



*1 バルクガス：窒素ガス、酸素ガス、アルゴンガス、炭酸ガス、ヘリウムガス、水素ガスの供給を予定しています。

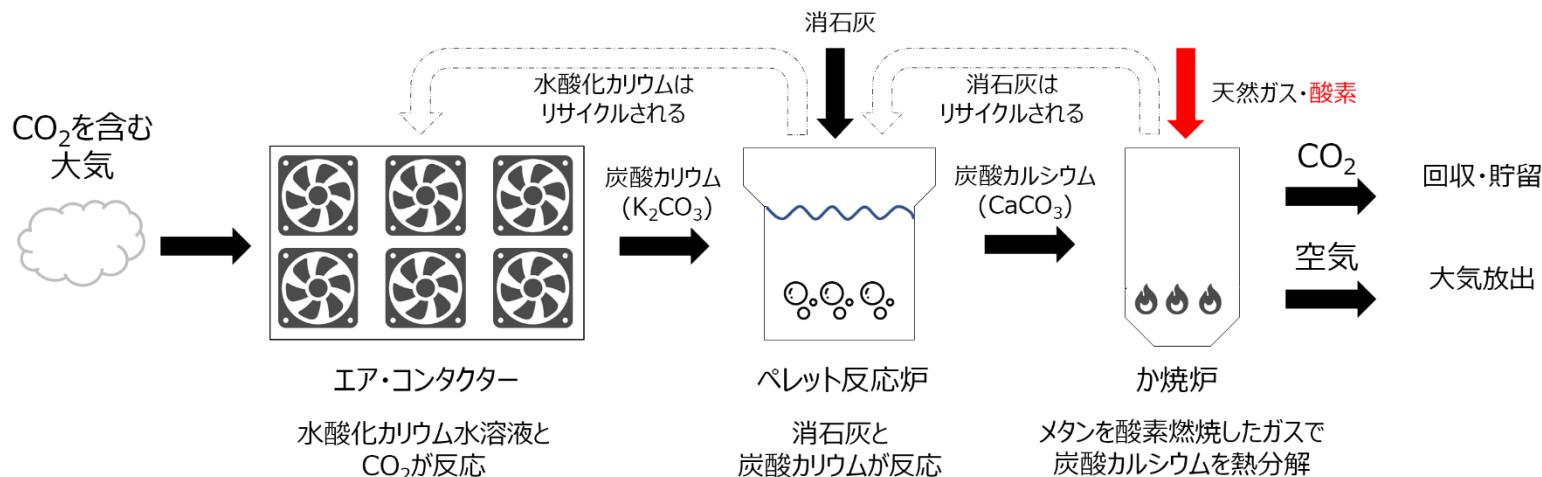
*2 日本の主要企業8社：キオクシア(株)、ソニーグループ(株)、ソフトバンク(株)、(株)デンソー、トヨタ自動車(株)、日本電気(株)、日本電信電話(株)、(株)三菱UFJ銀行
なお本件は、大陽日酸にて2023年6月29日付で[ニュースリリース](#)を発行しています。

DACプラント向け酸素供給契約を締結

米国事業会社のMatheson Tri-Gasは、1Point Five（米国）のDAC（Direct Air Capture）プラント向けの酸素供給契約を締結しました。

DACの主な工程と酸素の用途

酸素には、他の物質の燃焼を助ける性質（支燃性）があり、今回のDAC工程においても、炭酸カルシウムが燃焼し、CO₂を生成する際の燃焼促進用途で用いられます。



* DAC : Direct Air Captureの略で、大気中のCO₂を直接回収する技術で、本件では水酸化カリウム水溶液による化学吸収・吸着法で回収されます。カーボンニュートラル実現に向けて注目されている技術の1つです。

なお本件は、日本酸素ホールディングスにて2023年7月20日付で[ニュースリリース](#)を発行しています。

サーモスにおけるサステナビリティ

サーモスでは、「人と社会に快適で環境にもやさしいライフスタイルを提案します」という企業理念のもと、サステナビリティを意識して、事業運営しています。

サステナビリティテーマ
人と環境にやさしいサーモス

4つのテーマ

人を笑顔にする企業
環境循環型企業
サステナブルなモノづくり
地球の未来を守る

サーモスの取り組み

使用済みステンレス製魔法びんの回収サービスを開始

サーモスの直営店「サーモス スタイリングストア」関東3店舗にて、使用済みステンレス製魔法びんの回収サービスを開始しました。回収品は、再生材として、さまざまな製品の素材に再利用される予定です。



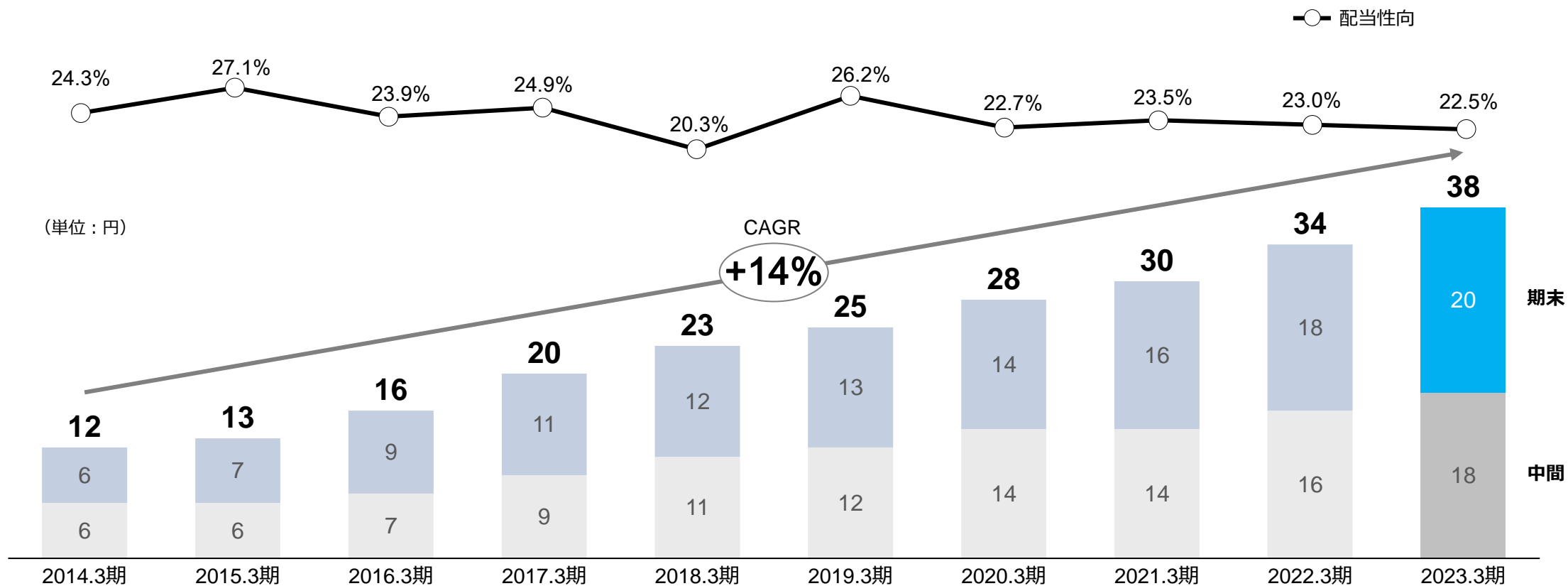
回収対象製品、店舗については、[サーモス公式ウェブサイト](#)よりご覧ください。

3. 株主還元



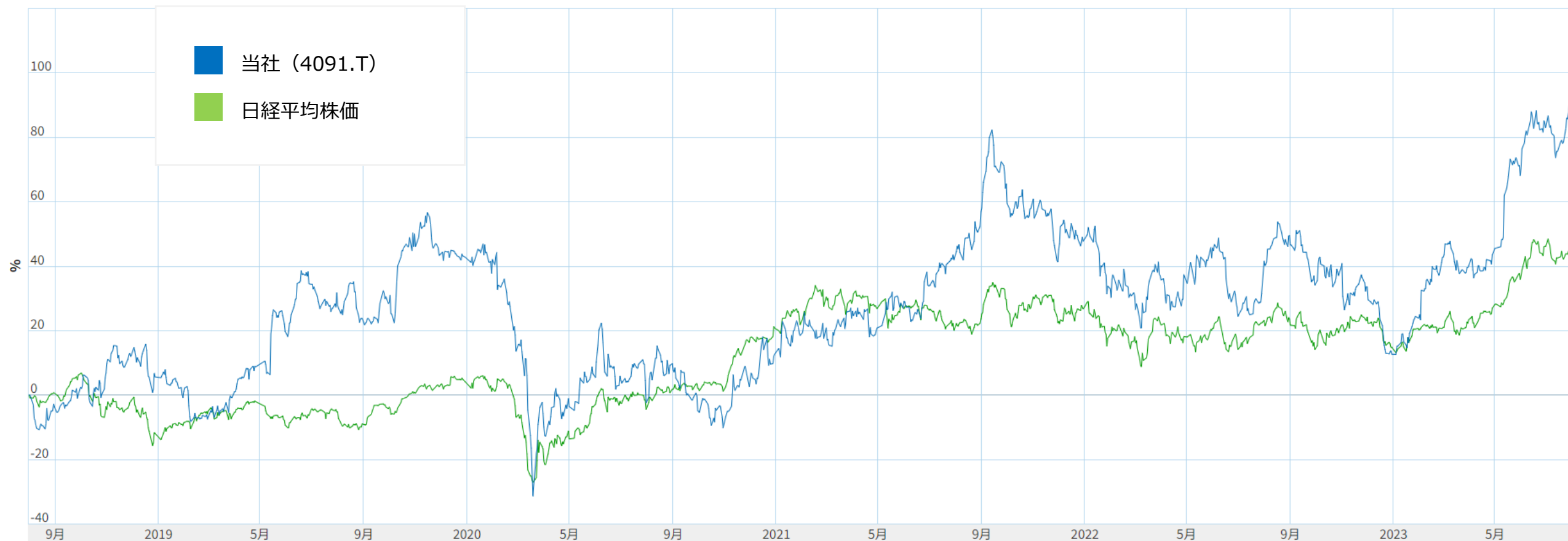
株主還元

事業を通じて創出したキャッシュフローを活かし、安定的かつ堅実な配当政策を実施します。



株価推移

過去5年間の株価推移を2018年8月1日を基準にした増減率で表示しています。

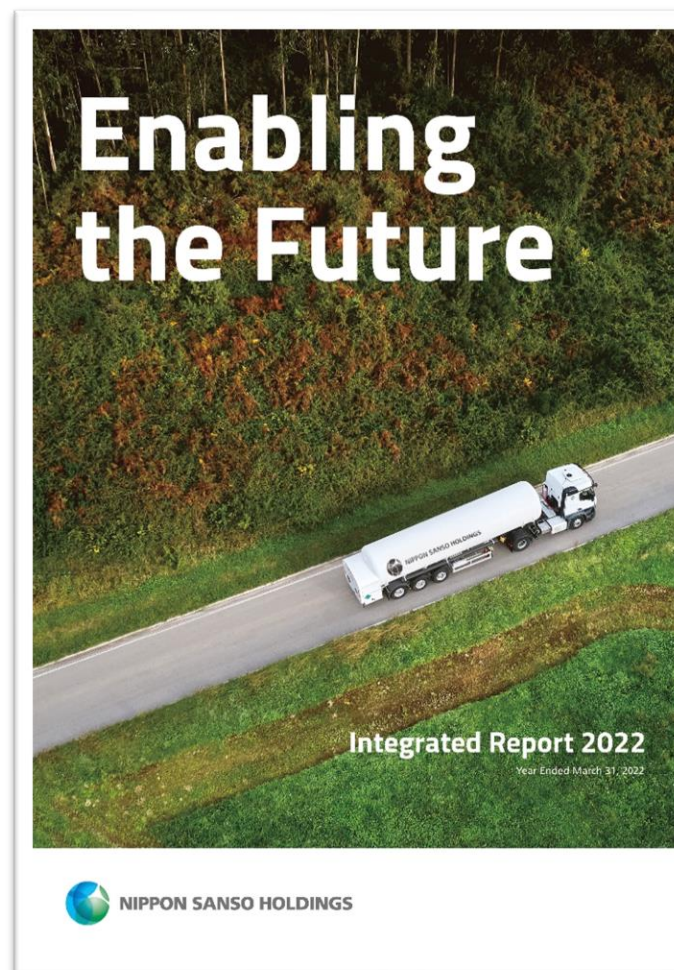
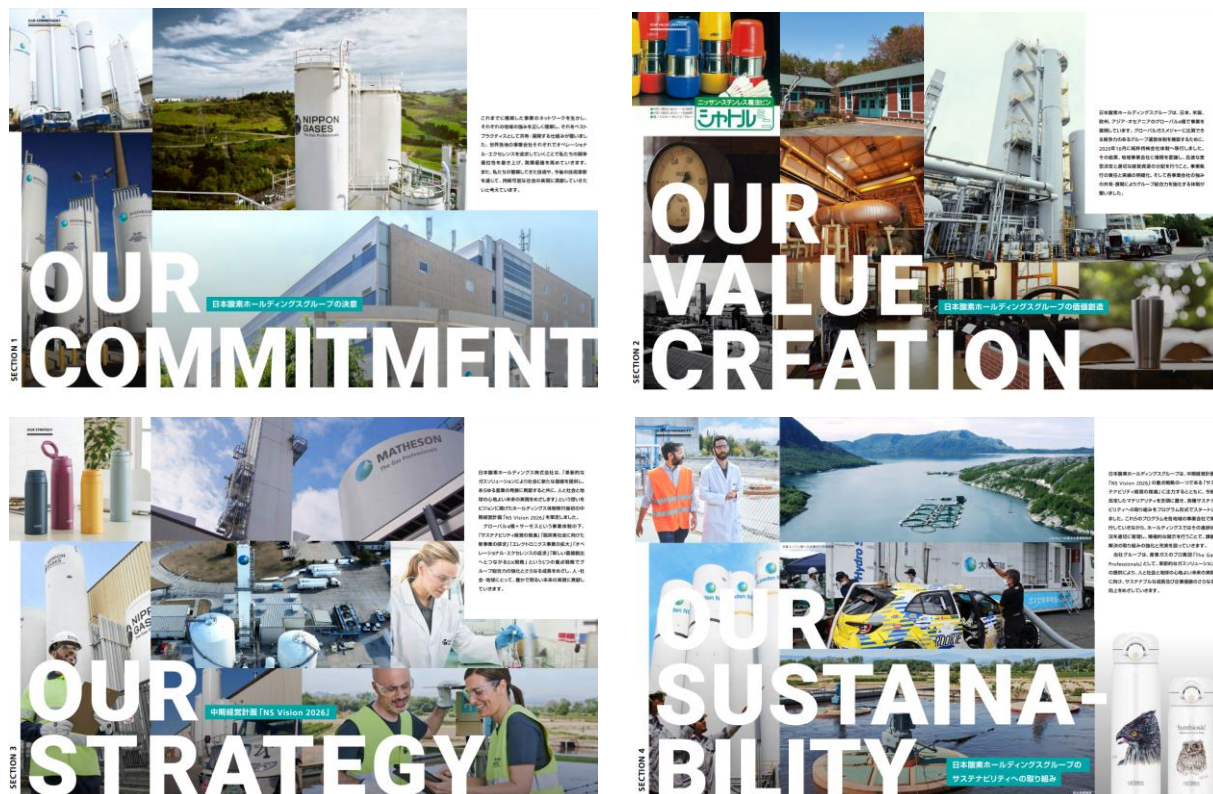


統合報告書のご案内

当社では、2017年から、財務・非財務情報を統合的に報告するために、毎年「統合報告書」を発行し、当社ウェブサイト上に公開しています。

2023年版は、9月に当社ウェブサイト上で公開予定です。

日本酸素ホールディングス 統合報告書2022（表紙）



QRコード
こちらのQRコードを読み取ると、統合報告書ページに遷移します。

結びのことは

Appendix

為替レートおよび為替感応度

・為替レートを適用した場合の売上収益並びに営業利益、及び為替変動による影響額の表示について

為替変動による影響額は、対象期間（当期及び前期）に当期の期中平均レートを適用して算出しております。これらの情報は、国際会計基準（IFRS）に準拠しているものではありませんが、これらの開示は、投資家の皆さまに日本酸素HDグループの事業概況をご理解いただくための有益な分析情報と考えています。

<為替レート>

期中平均レート

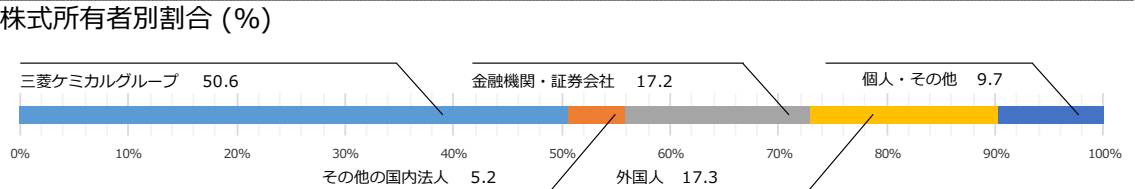
単位：円 通貨単位	2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期	単位：十億円 通貨単位	（ご参考）為替感応度 目安	
	第1四半期累計 (4-6月)	第2四半期累計 (4-9月)	第3四半期累計 (4-12月)	通期累計 (4-3月)	第1四半期累計 (4-6月)	第2四半期累計 (4-9月)	第3四半期累計 (4-12月)	通期累計 (4-3月)	通期前提 (4-3月)		通貨単位別 1円当たりの円安影響額 (通期基準)	
											売上収益	コア営業利益
USD 米ドル	109.76	110.10	111.45	113.04	131.25	135.30	136.85	136.00	130.00	USD 米ドル	+2.2	+0.28
EUR ユーロ	132.44	131.16	130.96	131.11	138.75	139.14	140.83	141.62	140.00	EUR ユーロ	+1.9	+0.25
SGD シンガポールドル	82.41	82.01	82.77	83.83	94.97	97.12	98.61	99.05	97.10			
AUD 豪ドル	84.15	82.33	82.69	83.33	92.52	93.51	93.16	92.67	93.50			
CNY 中国元	17.06	17.07	17.35	17.65	19.71	19.91	19.81	19.71	19.90			

・業績全般、及びセグメント業績の表示について

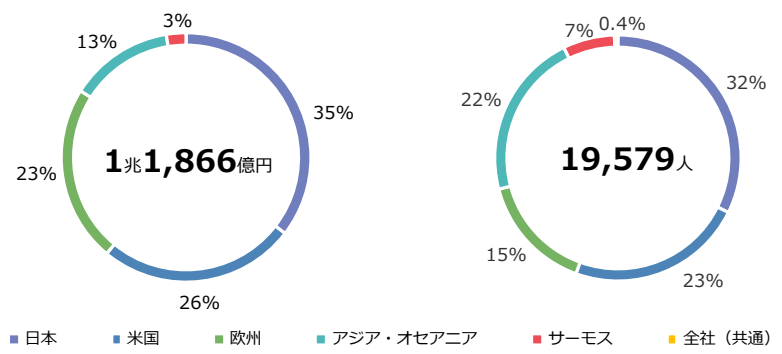
セグメント間については相殺消去後の数値であり、表示している金額には消費税等は含まれていません。

会社概要	
(2023年3月31日現在)	
商号	日本酸素ホールディングス株式会社
(英文名称)	Nippon Sanso Holdings Corporation
設立	明治43年(1910年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
電話番号	03-5788-8500 (代表)
代表者	代表取締役社長 CEO 濱田 敏彦
資本金	373億44百万円

株式情報	
(2023年3月31日現在)	
発行済み株式総数	433,092,837 株
株主数	14,743 人
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	4091.T



セグメント別売上割合および連結従業員数構成比 (2023年3月31日現在)



企業理念

グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

Proactive. Innovative. Collaborative.
Making life better through gas technology.

The Gas Professionals

グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより
社会に新たな価値を提供し、
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions that increase industrial productivity, enhance human well-being and contribute to a more sustainable future.

主要事業



2024年3月期 業績予想 (IFRS)

売上収益	1兆1,600 億円	親会社の所有者に帰属する当期利益	705 億円
営業利益	1,275 億円	EPS (1株あたり当期利益)	162.87 円

概要

計画名称	NS Vision 2026
スローガン	Enabling the Future
設定期間	2022年4月から2026年3月までの4年間
発表日	2022年5月11日

財務目標

(当計画 最終事業年度：2026年3月期)

売上収益	9,750-10,000 億円
コア営業利益	1,250-1,350 億円
EBITDAマージン	グループ： 日本, 米国, 欧州, アジア・オセアニア, サーマス： ≥24 % 日本, 米国, 欧州, アジア・オセアニア, サーマス： ≥17-33%
調整後ネットD/Eレシオ	≤0.7 倍
ROCE after Tax	≥6 %

(備考) 為替換算レート(想定)：USD ¥115 EUR ¥125

非財務目標

<環境>

GHG排出量の削減率	2026年3月期：	18 %
(基準年度：2019年3月期)	2031年3月期：	32 %
環境貢献製商品によるGHG削減量	2026年3月期：環境貢献製商品によるGHG削減貢献量 > 当社グループのGHG排出量	

<保安>

休業災害度数率	2026年3月期：	≤1.6
---------	-----------	------

<コンプライアンス>

コンプライアンス研修受講率	2026年3月期：	100 %
---------------	-----------	-------

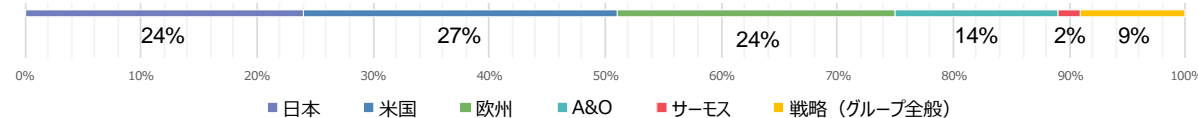
<人事>

女性従業員比率	2026年3月期：	≥22 %
	2031年3月期：	25 %
女性管理職比率	2026年3月期：	≥18 %
	2031年3月期：	22 %

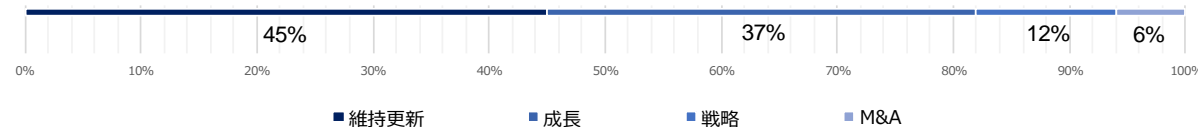
資本配分

キャッシュイン	(4年間合計)
[営業キャッシュ・フロー]	7,300 億円
キャッシュアウト	4,330 億円
[投資全般]	

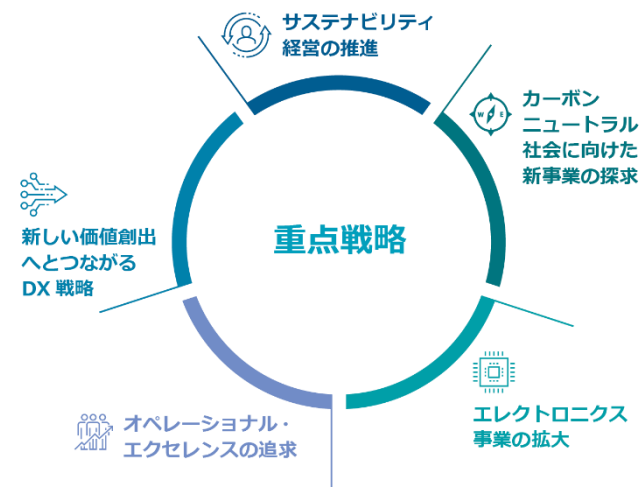
事業別構成比



目的別構成比

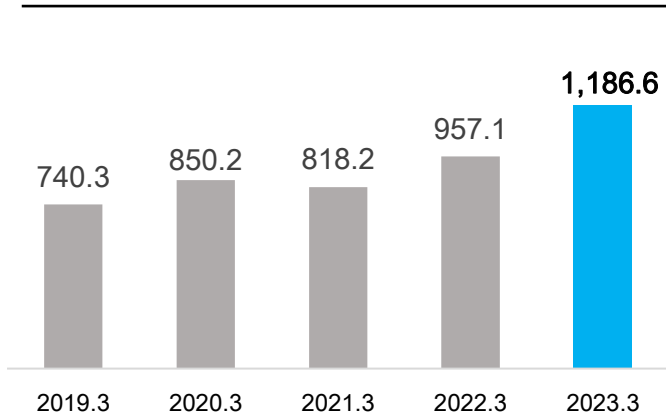


重点戦略

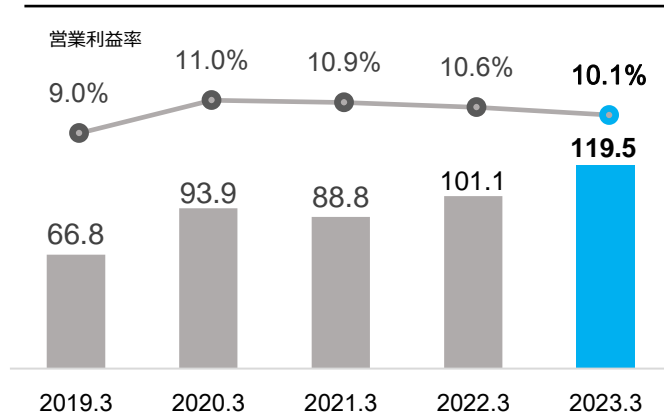


過去5か年の業績推移

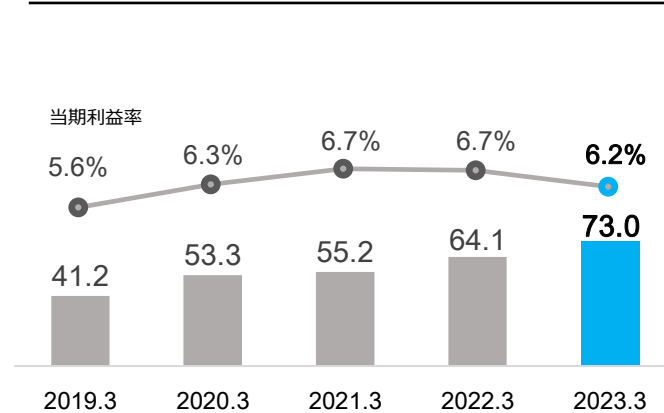
売上収益 (十億円)



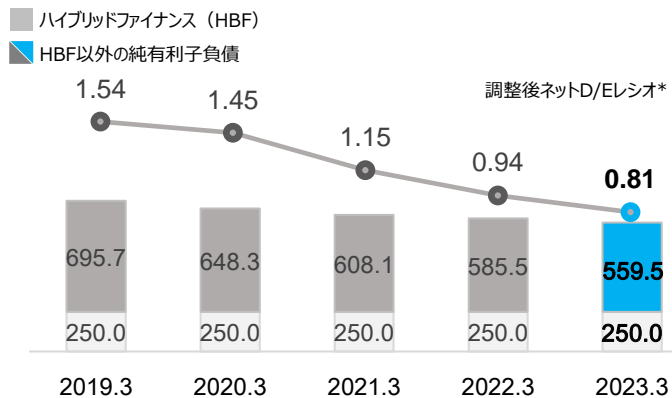
営業利益 (IFRS) (十億円)



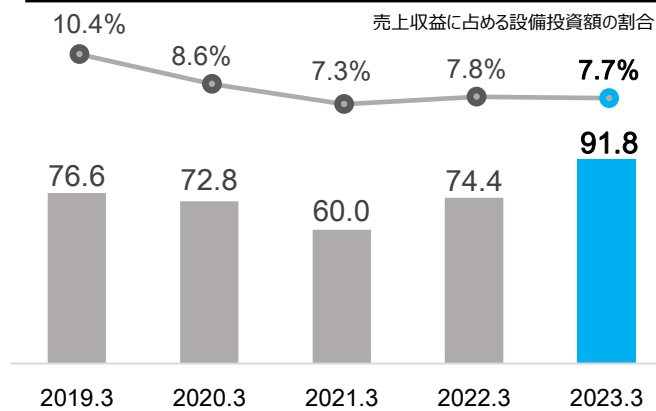
親会社の所有者に帰属する当期利益 (十億円)



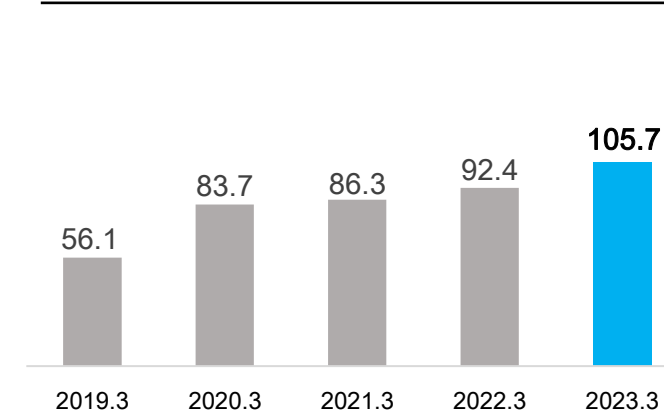
純有利子負債 (十億円)



設備投資額 (十億円)



減価償却額・償却費 (十億円)



*調整後ネットD/Eレシオ：格付機関により、HBFで調達した金額の50%を「資本」として認められていますので、この部分を考慮して算出した安全性（財務健全性）を示す指標です。

*2019年3月期までは工事ベースでの計上、2020年3月期以降は資金ベースでの計上です。

THERMOS

おいしい温度。サーモス

届けてきたのは、毎日のうれしい気持ち。

真夏の午後に飲むスポーツドリンク

しんと冷える朝に飲むコーヒー

仕事でひと息ついた時に食べる、温かいお弁当。

100年以上もの間、届けてきたのは「おいしいね」のすてきな笑顔。

これからもずっと一緒に。



さらに詳しい情報は、こちらまでお問い合わせください。

投資家・株主の皆さま

IR部

Tel : 03-5788-8512

E-mail : Nshd.ir@nipponsanso-hd.co.jp

今後の投資家向け開催予定イベント

2024年3月期 第2四半期決算発表 2023年10月31日（火）

www.nipponsanso-hd.co.jp

IRニューズメール配信サービスのご案内

当社ウェブサイトまたはQRコードからメールアドレスをご登録しますと、最新の適時開示等、当社IR情報について、公表と同時に自動でメール受信できます。

当社ウェブサイト「[IRニューズメール配信サービス登録画面](https://www.nipponsanso-hd.co.jp/ir/newsmail.html)」

<https://www.nipponsanso-hd.co.jp/ir/newsmail.html>

QRコード

こちらのQRコードを読み取ると、登録画面に遷移します。



日本酸素ホールディングス株式会社（証券コード：4091）

本社所在地：〒142-0062 東京都品川区小山1-3-26



NIPPON SANSO HOLDINGS

The Gas Professionals

© 2023 NIPPON SANSO Holdings Corporation All rights reserved